

(様式例)

令和3年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立安方中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・漢字や語彙の学習においてプリントやワークブックを用い、継続的な家庭学習の習慣を醸成することで学習の下地を作り出すことができた。
- ・対話的な課題解決を設定することで、思考力や表現力を高めることができた。

(2) 課題

- ・主体的に学習に取り組む態度について、学習の見通しを明確に示すことや相互評価を行うことで学習課題の価値に気づかせ、主体的に学ぼうとする意欲を喚起する必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和2年度結果	令和元年度結果	平成30年度結果
第1学年	区の標準スコアよりも下回っている。		
第2学年	区の標準スコアよりも下回っている。	区の標準スコアよりも下回っている。 (第1学年時)	
第3学年	区の標準スコアよりも上回っている。	区の標準スコアよりも上回っている。 (第2学年時)	区の標準スコアよりも上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の目標値より、校内平均正答率が下回っている。	区の目標値より、校内平均正答率が下回っている。	区の目標値より、校内平均正答率が下回っている。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
区の目標値より、校内平均正答率が下回っている。	区の目標値より、校内平均正答率が下回っている。	区の目標値より、校内平均正答率が下回っている。	区の目標値より、校内平均正答率が下回っている。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
総合的な観点から見ると意欲的に関心を持って取り組んでいる。態度等も良好で活発に発問等にも対応している。	区の目標値、区平均値より、校内平均正答率が上回っている。	区の目標値、区平均値より、校内平均正答率が上回っている。	区の目標値、区平均値より、校内平均正答率が上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
新出の語句の意味を調べるなど語彙力を高める活動を授業内で行う。 漢字の学習をワークブックで行う。進捗状況を都度確認し継続的な家庭学習の習慣を身につけさせる。	比較的に話を聞き取る力のある学年のため、課題解決においてグループ活動を取り入れる。 解決した課題を文章で表現することで表現力を高める活動を授業に取り入れる。	表現した課題などを相互評価することで、それぞれの学習活動の価値を感じられる機会を設け、意欲を育む実践を取り入れる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字プリント、語句の意味調べ等の課題を家庭学習として身につけさせ、漢字力、語彙力を向上させる。漢字小テスト等を定期的の実施し、漢字力の定着を図る。	比較的に読む能力がある学年のため、課題解決においてグループ学習を取り入れる。 解決した課題をワークシートに記入し、表現力を高める活動を授業に取り入れる。	いろいろな発問をし、意欲的に発言するように促し、それぞれの学習活動の価値を感じられる機会を設け、意欲を育む実践を行っていく。作品ごとの感想文等で丁寧に評価していく。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字、語意、慣用句、故事成語、ことわざ、文法等の学習に自主作成プリントを活用し語彙力を高めていくことを目指す。また、小テスト、単元テストを定期的の実施する。	読解力、判断力は比較的身についているので、応用力の向上を図るために、ワーク等の問題を個々に取り組むとともに、少人数でのグループ活動等で、意見の整理能力や課題の解決力、表現力の向上を高める活動を取り入れていく。	古文、漢文分野、作文、作品などの創作や、その発表等においては、比較的不得意としている生徒も少なくはないので、学習創作に主体的に取り組む為の工夫の具体例等を提示し、自己評価、相互評価をする機会を設け、関心、意欲の向上を目指す。